

パキスタン

世界各国の信教の自由に関する 2007 年版年次報告

民主主義・人権・労働局公表

国はイスラム教の共和国である。イスラム教は国教で、憲法は法律がイスラム教と矛盾しないことを義務付けている。憲法は、「法律、治安、道徳を前提に、あらゆる市民は、自分の宗教を公言し、実践し、普及させる権利を持つものとする」としているが、しかし、実際は、政府が宗教の自由の制限を課している。言論の自由は、憲法上、「イスラム教の栄光のために法律によって課されたいかなる妥当な制限も受ける」

政府は、この報告で扱われた期間中、宗教的少数派の処遇改善のためのいくつかの措置をとったが、深刻な問題が残っていた。法執行官は、拘留中の宗教的少数派を虐待した。治安部隊および他の政府機関は、少数派に対する社会的虐待を適切に防がず、あるいはそれに取り組まなかった。差別的な法律および異なる信仰を実践する人々に敵対的な社会勢力に対して政府が措置を取らなかったことが、宗教的な不寛容、暴力行為、宗教的少数派に対する脅迫を助長した。宗教的少数派を差別する具体的な法律には、反アフマディー（Anti-Ahmadi）法およびイスラム教あるいはその預言者を冒瀆することを死刑と定める不敬罪が含まれる。政府は、強姦罪および姦通罪の事件をシャリーア法廷から世俗法廷に移すことで、フドゥード法（Hudood Ordinances）を改正した女性保護法（the Women's Protection Act）を制定した。Pervez Musharraf 大統領は、フドゥード法で収監されたすべての女性の釈放を指示した。ごく少数の女性が収監されたままで、ほとんど女性は政府運営のグループホームに収容されている。

アフマディー・コミュニティは、政府および社会からの差別ならびにその信仰の実践の法的制約に引き続き直面した。他のイスラム教宗派のメンバーも、政府の差別を主張した。

宗教コミュニティ間の関係は、緊張していた。宗教的少数派に対する社会的差別は広範囲にわたり、少数派グループに対する社会的暴力が発生した。テロリスト、過激派グループ、個人を含む社会の行為者は、信者たちを目標とした。

米国政府は、人権を促進するための全体的な政策の一環として、政府と宗教の自由に関する問題について議論している。この報告が扱う期間中、米国大使館員は宗教的少数派の処遇を注意深く監視し、宗教的な不寛容の教えをなくすよう努め、不敬罪の改正を奨励した。

セクション I 宗教統計

国は、310,527 平方マイルと 1 億 6,800 万の人口を有している。1998 年に行われた最新のセンサスによると、宗教統計に関する公式の数字は、人口の約 96 パーセントがイスラム教徒であることを示した。人口の 2 パーセントあるいはそれ以下を構成するグループは、ヒンドゥー教徒、キリスト教徒およびアフマディー教徒を含む他の宗教である。国内のイスラム教の多数派はスンニー派で、シーア派少数派が 10 から 20 パーセントに及んでいる。バハーイー教徒が 30,000 人と主張する一方で、パールシー教徒 (Parsis)(ゾロアスター教徒)、シク教徒 (Sikhs)、仏教徒がそれぞれ約 20,000 人の信者を持っていた。Baluchistan および北西辺境州 (NWFP: North-West Frontier Province) のいくつかの部族は、伝統的なアニミズム宗教 (animist religions) を実践していた。

人口の 0.5 パーセント以下は、宗教に言及しなかったか、特定の宗教グループを支持しないと述べた。社会的圧力がかなりあるので、ごく少数の人が無宗教を主張したのかもしれない。

正式な礼拝あるいは儀式への積極的な参加に関するデータはなかった。宗教は日常生活においてしばしば重要な役割を果たした。ほとんどのイスラム教徒は、イスラム教の神聖な日である金曜日に祈りを捧げた。多くは、毎日お祈りをした。ラマダンの月の間、多くのあまり宗教的行事を厳守しないイスラム教徒が、断食をし、礼拝に参加した。英語を話すローマカトリック教徒の約 70 パーセントが定期的に教会に行き、それよりかなり少ない割合のウルドゥー語を話すカトリックが定期的に教会に行った。ヒンドゥー教の儀式への参加は、祝祭の期間、増加した。

外国人宣教師が国内で活動している。

セクション II 宗教的自由の状況

法的、政策的枠組み

憲法はイスラム教を国教として定めている。少数派が彼らの宗教を自由に公言し、実践するために、適切な規定を設けるものとするとも言明しているが、実際には、政府は宗教、特にアフマディーの自由に制限を課している。

1974 年の憲法改正は、アフマディーを非イスラム教と宣言している。通常「反アフマディー法 ("anti-Ahmadi laws)" と呼ばれる第 298(c) 条は、アフマディーが、彼ら自身をイス

ラム教徒と呼ぶこと、彼らの信仰をイスラム教と呼ぶこと、彼らの信仰を伝道あるいは普及すること、他の人々にアフマディーの信仰を受け入れるよう求めること、あるいはイスラム教徒の宗教的感情を侮辱することを禁止している。この項の違反に対する刑罰は、3年以下の禁固と罰金である。他の宗教コミュニティは、通常、自由に彼らの宗教的義務を果たせたが、宗教的少数派は、ある種の宗教的な偶像を公に飾ることを法的に制限されており、差別的な法律および社会的な圧力によって、彼らの宗教を自由に公言することをしばしば恐れている。

言論の自由は、「イスラム教の栄光」のための「妥当な」制限を受けている。国の不敬罪に反する結果は、イスラム教あるいはその預言者の冒瀆には死刑、コーランの冒瀆、破損あるいは神聖を汚す場合は終身刑、他人の宗教的感情の侮辱は10年の禁固である。これらの法律は、改革派イスラム教徒、対立宗派、宗教的少数派を脅すのと同様に、個人的な恨みを晴らすためにしばしば利用されている。反テロ法では、宗教的な憎悪を起こさせようとする言論を含むいかなる行為も、7年以下の禁固によって罰することができる。この法律では、判事が被告人を有罪と考える正当な根拠がある場合、保釈は認められない。しかし、この法律は選択的に適用されている。

加えて、他人の宗教感情を、少数派宗教グループのものを含め、傷つけるいかなる言動あるいは行為も禁止されており、禁固によって罰することができる。しかし、少数派宗教の宗教的感情が侮辱された場合には、不敬罪はほとんど適用されず、事件はほとんど法制度に持ち込まれなかった。2005年の法律は、訴えが起こされる前に、警察高官がいかなる不敬罪も調査することを義務付けている。

刑法は、多数のイスラム法（シャリーア）の規定を、表面上、組み込んでいる。司法制度には、民事、刑事、イスラム法体系の違いを反映する、重複し時には競合する司法権を持つ、いくつかの異なる裁判制度が含まれている。連邦シャリーア法廷および最高裁判所シャリーア法廷は、フドゥード法の刑事裁判所におけるある種の有罪判決の上訴裁判所となっている。これらの法廷での検事および弁護士はイスラム教徒でなければならない。連邦シャリーア法廷は、イスラム教の教義と矛盾すると判断されたいかなる法律もくつがえすことができる。2005年3月、最高裁判所首席裁判官は、Mukhtaran Mai 強姦事件の訴訟手続きの停止命令を出し、たとえ連邦シャリーア法廷が最初の上訴権を持つべきであったとしても、地方高等裁判所の決定を見直す司法権は連邦シャリーア法廷にはないとの裁定を下し、シャリーア上訴法廷の権限に対して打撃を与えた。

刑法は、犯罪者に被害者への金銭的な被害弁償を申し出ることを認めており、また、被害者に裁判制度を通して刑罰を求めるよりも身体的な報復を行うことを認めている。このお

そらくイスラム教の規定と思われるものは、すべてに適用された。宗教的少数派は、イスラム教徒よりも、少数派の犯罪者がかなり高い額の、そして少数派の被害者がかなり少ない額の、金銭的な被害弁償に直面し、受け取ったと主張した。

Musharraf 大統領は、強姦および姦通の事件をシャリーア法廷よりもむしろ世俗法廷に本質的に移した、女性保護法を強力に推し進め、2006 年 12 月 1 日、署名して法律とした。以前、強姦、婚外交渉、窃盗犯罪、飲酒、ギャンブルを犯罪行為とするフドゥード法は、イスラム教徒と非イスラム教徒に同等に適用される、証拠および刑罰の苛酷で差別的なコーランの基準にしばしば頼っていた。もしコーランの基準が適用されるならば、イスラム教徒と非イスラム教徒および男性と女性の証言は、異なった影響力を持つ。

政府は、パスポートおよび国民 ID カードに宗教を明示している。市民は、投票するためには国民 ID カードを持たなければならない。イスラム教徒として記載されることを望む者は、ムハンマドが最後の預言者であると信じ、アフマディー運動の創始者を偽の預言者であり、彼の信奉者を非イスラム教徒として非難しなければならない。これは、アフマディーを差別するための規定である。最初の有権者登録では、もはやそのような宣誓は必要なかったが、選挙委員会は、その宗教が世間によって異議申し立てを受けたいかなるイスラム教登録者も宣誓しなければならないと主張した。その結果、アフマディー教徒は選挙のボイコットを続けた。

憲法は、「宗教組織を運営する自由」を定めている。原則として政府は、組織された宗教グループが礼拝の場を開設し、聖職者を養成することを制限しない。しかし実際には、宗教的少数派は、この権利の制限に苦しんだ。

国は、モスクの建設および保守ならびにイスラム教聖職者に資金を提供している。地方および連邦政府は、分割の際に放棄された少数派コミュニティに属する特定の宗教財産に対して法的責任を持っている。少数派コミュニティは、政府がそれらの保護と管理に適切な資金を投入しなかったと主張した。政府は、あらゆるスンニー派イスラム教徒に対して 2.5 パーセントの税（「ザカート (Zakaat)」）を徴収し、それがスンニー派モスクおよび慈善事業に分配された。同様の要件は、他の宗教グループには課されなかった。

政府の政策は、多数派と少数派の宗教グループのメンバーに対して平等の保護を与えていない。宗教の自由を保護する権限を与えられている宗教省は、年間予算の 30 パーセントを貧しい少数派の援助、少数派礼拝所の修理、少数派運営の小規模開発計画の設立、少数派の祭日のお祝いに費やしていると主張している。しかし、宗教的少数派は、少数派市民が住んでいる地方や村が基本的な町の生活必需設備がないことを見て、この数字に異議を唱

えた。宗教省は、その題字にコーランの一節「イスラム教のみが神に受け入れられる宗教である」があった。

イスラム教の宗教祝日は、国の祝日である。

憲法は、「宗教について教育機関を」保護している。いかなる学生に対しても、彼あるいは彼女自身の宗教以外の宗教教育を受けること、あるいは礼拝に参加することを強制することはできない。いかなる宗教コミュニティあるいは宗派の学生に対する宗教教育の拒否も禁止されている。

「Islamiyyat」(イスラム学)は、国立の学校ではすべてのイスラム教学生に必須であった。他の宗教グループの学生は、イスラム教を学ぶことを法的に義務付けられてはいなかったが、彼ら自身の宗教についての同様の学習は提供されなかった。いくつかの学校では、非イスラム教学生は、「Akhlaquiyyat」すなわち倫理学を学ぶことができた。

憲法は、宗教のみに基づくいかなる政府系教育機関への差別的入学許可を明確に禁止している。政府当局者は、政府系教育機関への入学許可に影響する唯一の要因は、学生の成績および出身県であると述べたが、学生は申請書に宗教を申告しなければならない。イスラム教学生は、ムハンマドが最後の預言者であると信じるということを書面で宣言しなければならない。これは、アフマディーを選び出す方策である。非イスラム学生は、彼らの地元の宗教コミュニティの首長によって、彼らの宗教を立証しなければならない。

両親が自費で子供を宗教学校に入れるのは自由であり、多くの人がそうした。私立学校は、自身の選択によって宗教を教えるか教えないかが自由であった。

マドラサ (madrassahs) として知られるイスラム教学校は、純粋に宗教教育を求めるイスラム教徒のための伝統的な機関である。近年、多くの madrassahs はテロを支持する過激論者の教義を教えている。多くの農村コミュニティでは、それが唯一の教育形態である。過激主義の普及を抑制する試みとして、2002 年のマドラサ登録法 (Madrassah Registration Ordinance) は、すべての madrassahs に 5 つの独立委員会 (wafaqs) の 1 つに登録すること、外国から資金提供を受けるのを止めること、その国の政府の同意によってのみ外国人学生を受け入れることを義務付けた。内務省によると、Musharraf 大統領によって課された 2005 年 7 月の期限までに、外国人 madrassah 学生の 95 パーセントが出国した。宗教省によると、推定 13,000 から 15,000 の madrassahs のうち、約 11,000 がこの報告期間の終わりまでに登録した。

2005 年 12 月、Musharraf 大統領は、資金および教育データの提供ならびに宗派あるいは宗教による憎悪と暴力の教えの禁止を含む、madrassahs の政府との協力的登録の枠組みを計画した。政府および独立した madrassah 委員会は、数学、英語、理科を含む世俗科目のすべての madrassahs での段階的な導入に合意した。

すべての wafaq は、宗教あるいは宗派の不寛容を助長する教えおよび madrassahs でのテロリストあるいは過激派の勧誘の排除を指示した。監査官は付属の madrassahs に、英語、数学、理科を含む世俗科目で宗教学を補うことを指示した。wafaq は、madrassahs への海外からの私的資金提供も制限した。調査に関する不安は、政府と活発に議論されている。連邦直轄部族地域 (FATA: Federally Administered Tribal Areas) および北部 Balochistan のいくつかの未登録とデオバンド派支配の madrassahs は、過激主義を教え続けている。同様に、Jammat-ud-Dawa 運営のダワの学校は、そのような教えと指定を受けた外国テロリスト組織、Rashlar-e-Tayyiba への勧誘を続けていた。

2007 年 3 月の報告は、Karachi の規制されていない、過激派の madrassahs が、若い、仕事のない男性が大量にいる無秩序な街で大きくなり続けていると指摘した。国際危機グループは、madrassahs の改革を試みた 5 年の後、政府のプログラムは十分に成功しておらず、過激派グループが、一貫した規制の欠如で、Karachi および他の場所でモスクや madrassahs を公然と運営していると伝えた。

NWFP の 6 つの保守政党の連合、統一行動評議会 (MMA: Mutahida Majlis-e-Amal) 主導の地方政府は、保守的なイスラム教の考えに従った、指令および法律の通過を続けた。実施された場合、これらの動きの多くは、彼らの宗教にかかわらず、すべての市民にイスラム法を課すであろう。既存の法律は、広告が取り壊され、特定の西洋音楽を売ることに対して店が罰金を科されたわいせつ文書禁止条例、アルコールの完全禁止、公務員の 1 日 5 回のお祈りの義務を含む。

政府は、通常、宗教書籍の出版を制限していない。しかし、アフマディーの宗教文献の販売は禁止されている。法律は、イスラム教あるいはその預言者のいかなる批判、あるいは他人の宗教への侮辱も出版することを禁じている。

政府は、もっとも役職の高いレベルで、見識ある節度を促進するためのプログラムの一環として、異教徒間の対話および宗派間の調和を求め続けた。宗教省 (the Religious Affairs Ministr) および憲法で権限を与えられた政府機関であるイスラム・イデオロギー評議会 (the Council on Islamic Ideology) は、異教徒間、異宗派間のワークショップおよび会合を引き続き主催した。宗教省の第一の責務は、メッカへの巡礼および他のイスラム教の宗教的な

巡礼への参加を組織し、ザカートを分配することである。

政府は、両親が選択した宗教の教えおよび実践に従って子供を育てることを禁止、制限、あるいは罰せず、また、両親が自宅の人目に触れない所で子供に宗教を教えることを妨げる手段も講じなかった。

名目上、個人に宗教を実践あるいは参加させる法的な要件はない。しかし、憲法は、大統領および首相はイスラム教徒であることを義務付けている。国会議員を含むあらゆる政府高官は、国のイスラムアイデンティティを守るために宣誓をしなければならない。政府職員は、各自の宗教のいかなる原理を誇示するあるいは実践することも禁止されていない。

宣教師（アフマディーを除く）は、国内で活動しており、イスラム教に反する説教をせず、宣教師が自分をイスラム教ではないと認める限り、改宗を勧めることができる。宣教師は、2年から5年有効の特別なビザを取得することが義務付けられており、1年に1回の入国が許されている。出国する宣教師の後任となる者の「交替」ビザのみがあり、長期の遅延および官僚的な問題が頻繁に起こった。

反テロリスト法に従って、政府は、いくつかの宗教的過激派およびテロリストグループの活動ならびにその一員となることを禁止した。反テロリスト法は、暴力犯罪、テロリスト活動、宗教的憎悪の扇動をもくろむ行為あるいは演説、国家に対する犯罪を裁くために、政府に特別な簡素化された法廷を利用することを認めている。しかし、政府が禁止したグループの多くは、依然活動的であった。

国は、民事的婚姻あるいは内縁関係も認めていない。婚姻は、各自の宗教に従って執り行われ、登記される。非イスラム教徒男性の婚姻は、イスラム教へ改宗することによって合法のままとなるが、イスラム教徒に改宗した女性の婚姻は、彼らの以前の宗教の儀式で執り行われた場合、無効であると見なされる。婚姻後にイスラム教に改宗したヒンドゥー教あるいはキリスト教の女性に生まれた子供は、夫も改宗しない限り、非嫡出と見なされる。改宗する非イスラム教徒の男性の子供は、嫡出と認められる。イスラム教の男性は、「聖書の」（ユダヤ教徒あるいはキリスト教徒）女性と結婚できるが、女性がイスラム教、ユダヤ教、あるいはキリスト教に改宗しない限り、他のいかなる宗教の女性とも結婚できない。イスラム教の女性は、イスラム教の男性のみと結婚できる。2人とも他の宗教に改宗するイスラム教の男性とイスラム教の女性の子供は、非嫡出と見なされ、国に没収される。加えて、イスラム教からの改宗は、背教者となり、死刑に値する。

実際には、新婦と新郎の両者が同じ宗教の場合、宗派に関係なく、あるいは新郎がイスラ

ム教徒で新婦が「聖書の」信者の場合、政府は婚姻を認めている。

これらのカップルに生まれた子供は嫡出と見なされる。新婦がイスラム教徒で新郎が違う場合、彼らは結婚したとは認められず、彼らの子供は非嫡出である。イスラム教徒の男性は、いかなる他の宗教への改宗も認められていないので、婚姻が合法となり、子供に相続資格を与える唯一の方法は、新郎がイスラム教に改宗する場合である。

宗教の自由に関する制限

政府は、アフマディーを標的とし、嫌がらせをするために、反アフマディー法を利用した。アフマディーが直接あるいは間接的にイスラム教徒であるとの態度をとることを禁止する規定のあいまいな表現が、一般的なイスラム教の挨拶のかたちをとること、また子供をムハンマド (Muhammad) と名づけることに対して、当局者にアフマディーを告発できるようにした。アフマディー・コミュニティは、この報告が扱う期間中に、28 人のアフマディーが宗教法あるいは彼らの宗教による刑事告発を受けたと主張した。その内訳は、4 人が不敬罪、17 人がアフマディー用の法律、7 人が他の法律であるが、彼らのアフマディーの信仰によって動機付けられたものである。

2006 年 4 月の終わりの段階で、4 人のアフマディーが不敬罪で投獄されていた。1 人は刑務所に服役中で、他の 2 人はアフマディー・コミュニティが彼らの宗教的信仰によって不当に告発されたと主張する殺人罪に直面し、保釈中であった。さらに 7 つの刑事告発、殺人から器物損壊までが、この報告期間中にアフマディー・コミュニティの著名なメンバーに対して起こされた。事件は不起訴のままで、被告人は保釈金を納めることが認められた。

アフマディーは、彼らの信仰を説くことで逮捕され続けた。2006 年 7 月、4 人のアフマディーが説教したことに對して、反アフマディー法で Sialkot 地区において逮捕された。

2006 年 8 月、Mian Mohammed Yar は、説教の罪によって反アフマディー法で告発された。彼は地元のアフマディー・コミュニティの会長であった。

1983 年以来、アフマディーは、公の会議あるいは集会を開くことを禁止されており、年次会合の開催許可を拒否されている。アフマディーは、説教することを禁止され、メッカの巡礼あるいは他の宗教的巡礼でサウジアラビアに行くことを禁じられていた。アフマディーの出版物は公の販売を禁止されていたが、宗教関連の文献を大量に、限られた範囲内で流通するために出版した。

憲法は、礼拝場所を設立する、また聖職者を養成する権利を保証しているが、実際は、アフマディーはこの権利の制限を受けた。報道によると、当局はアフマディーおよびその施設への監視を続けた。いくつかのアフマディーのモスクは閉鎖されたといわれ、他は俗用に供されたか建設が中止されたといわれている。

大衆からの圧力が、裁判所が少数派の権利を守ることを日常的に妨げた。この同じ圧力が、スンニー派の正統性への気がついたあらゆる攻撃に対して、裁判官に強い行動をとるように強いた。宗教的少数派に対する差別は、めったに司法制度にかけられなかった。裁判所がそのような事件に客観的な裁決を下すことはありそうにもない。事件の解決は非常に遅かった。事件の提訴から最初の出廷までには、通常、長期間かかった。下級裁判所は、頻繁に脅され、決定を遅らせ、過激派分子からの報復を恐れて保釈を拒否した。不敬罪の保釈は、被告人が死刑に直面しているので逃げる可能性があるとのことで、普通、最初の予審法廷で拒否された。多くの被告人が保釈拒否を上訴したが、保釈はたいてい裁判に先立っては認められなかった。

学校では、教師が多くの非イスラム教学生にイスラム学を修了するよう義務付けた。キリスト教の学生は、主にイスラム教徒の公立学校で、別のテーブルで食事をするように強いられたともいわれている。

多くの地方政府は、聖三位一体やイエスキリストなどの特定の宗教的な偶像の配布および表示を制限した。しかし、そのような偶像は、国の他の場所では容易に入手できた。

信仰あるいは宗教の具体的な信奉は、与党あるいはいかなる宗教のメンバーも除外しない穏健な野党のメンバーとなるために義務付けられてはいなかった。MMA には、非イスラム教徒の国会議員がいた。しかし、実際には、それぞれの有権者の政党は、通常、メンバーをその宗派の支持者に限定した。

政府は、特定の宗教、信仰、あるいは教義の解釈に基づく政党の結成を制限しなかった。政府は、以前のテロリストや過激派組織とのつながりにより、さまざまなイスラム教政党およびその聖職者の活動を監視した。

外国書籍は、再版前に政府の検閲官を通らなければならない。書籍および雑誌は、自由に輸入することができるが、不快な性的あるいは宗教的内容に対する検閲を条件とする。

政府は、メッカ巡礼の旅に資金提供し、促進したが、宗教的少数派の巡礼のための同様のプログラムはなかった。アフマディーのメッカ巡礼の旅の禁止に加えて、政府はイスラエ

ルの非承認のために、バハーイー教徒をイスラエルの精神的な中心地へ行かせないようにした。

スンニー派イスラム教徒は、政府の雇用および昇進において、有利な扱いを受けているように見えた。シーア派および他の宗教的少数派は、行政機関の雇用および高等教育の政府機関への入学において、政府が彼らのコミュニティのメンバーに対して永続的に差別していると主張した。あらゆる少数派グループの昇進は、行政機関内に限られているように見受けられた。これらの問題は、アフマディーにとって特にひどかった。彼らは、「ガラスの天井」が彼らの上級ポストへの昇進を妨げ、ある政府官庁が有能なアフマディーを雇用、あるいは雇い続けることを拒否したと主張した。政府は、政府モスクの聖職者や政府イスラム教大学の教員を雇用する際に、Ahl-e-Hadith や Barelvi などのいくつかのグループを差別した。

国民および地方議会の両方で、宗教的少数派のための席が確保されている。この席は、議会での全体の議席に比例して政党に割り当てられる。

少数派の宗教グループのメンバーは、少人数が兵役に志願し、彼らの昇進に正式な障害はなかった。しかし、実際には、非イスラム教徒は、大佐の階級より上に行くことはほとんどなく、政治的に微妙な地位に就くことはなかった。イスラム教徒の兵士には、従軍チャブレンが礼拝を行ったが、宗教的少数派には、同様のことは行われなかった。この報告期間中、シク教徒が、Abbottabad にある陸軍学校を初めて卒業した。

公立学校のカリキュラムは、少数派宗教グループ、特にヒンドゥー教徒およびユダヤ教徒に対する悪口が教科書に書かれており、宗教の不寛容の一般化した教えは許されていた。政府は、そのような教えを排除し、世俗科目からイスラム教的含みを取り除くように、カリキュラムを引き続き現代的にした。必須のイスラム教学授業の代わりに、教育省は道徳をもう 1 つの授業として提供することを支援した。政府は、アフマディーおよびキリスト教徒が大学や医学校への入学を申請する際、彼らの宗教を理由に差別した。

当局者は、宗教グループが礼拝所を建てる、あるいは土地を取得しようとするのを遅らせるために、官僚的な要求や賄賂を使った。アフマディーは、礼拝所を建てることができなかったが、スンニー派イスラム教のグループは、政府許可なしに、時には、土地利用規制条例に違反し、政府所有の土地にモスクや聖廟を建てた。

フドゥード法で告発されたほぼすべての女性は、女性保護法の通過後に釈放された。数 100 人は、法制度の中に留まっているが、彼女たちは、現在、さまざまな Daarul Amaans (政

府運営の女性保護施設)に収容されていた。多くは、社会的に追放され、自宅に帰ることができなかった。

信教の自由の濫用

警察は一般に拘留中の者を拷問し、虐待し、時には法手続きを踏まずに殺害した。宗教的少数派が被害者である事例において、宗教が要因であったかどうかを確かめることは、通常、不可能であったが、キリスト教徒およびアフマディー・コミュニティは、彼らのメンバーがより虐待されやすいと主張した。非イスラム教徒の囚人は、通常、イスラム教の収容者より粗末な施設を与えられた。

当局は、宗教的少数派および改革派イスラム教徒に嫌がらせをし、個人的な恨みを晴らす、あるいは商売上の競争に決着をつけるために、不敬罪を日常的に利用した。当局は、個人を偽の告発で拘留し、有罪とした。裁判官および治安判事は、過激派との対決、あるいは彼らからの暴力を避けようと、裁判をしばしばいつまでも続けた。

アフマディー指導者は、政府が、宗教的な理由で彼らのメンバーに対して、刑法の決まった項を使ったと主張した。当局は、アフマディー・コミュニティへの改宗者を、不敬罪、反アフマディー法違反、あるいは他の罪でしばしば訴えた。他の少数派宗教グループへの改宗は、通常、社会からの反発を避けるために、秘密裏に行われた。

この報告期間中、当局は、不敬罪で少なくとも 25 人のアフマディー教徒、10 人のキリスト教徒、6 人のイスラム教徒を逮捕した。この報告機関の終わりの段階で、多くは収監されたままであった。正義と平和委員会は、「通常、我々は安全のために保釈を要求しなかった。不敬罪容疑者は、警察の保護下で、刑務所の中がたいていもっとも安全である」と述べた。

2007 年 5 月、当局者は、不敬罪で訴えられたキリスト教徒、Martha Bibi を保釈金で釈放した。彼女は 2007 年 1 月の逮捕以来収監されていた。コーランの悪口を言ったと訴えられ、Bibi は彼女の夫が販売した材料の支払いをしたくないイスラム教徒の建設業者から告発されたと主張した。

2007 年 5 月、当局は、不敬罪で Walter Fazal Khan を逮捕した。Walter は、コーランを燃やしたと訴えられた 84 歳のキリスト教徒である。家族は、Khan が売る土地を言い値よりかなり安く購入しようとしたイスラム教徒の実業家の被害者だと主張した。彼の逮捕後、地元の宗教指導者は、Khan の 86 歳の妻をイスラム教に無理やり改宗させた。

2007 年 4 月、カトリック教徒、Sattar Masih は、警察官が到着し、預言者ムハンマドに対する冒瀆的な言葉を書いたとのことで逮捕される前に、暴徒によって拷問された。警察は自白を得るために、刑務所内で再び彼を拷問したといわれている。

2007 年 4 月、当局者は、預言者ムハンマドの名前が書かれた紙を冒瀆したとして、Toba Tek Singh のキリスト教徒、Salamat Masih と彼の家族 4 人を訴えた。当局者は Salamat を逮捕したが、Salamat の 11 歳の息子を含む他の 4 人は潜伏を続けた。

2007 年 3 月、イスラム教徒の暴徒が、コーランを冒瀆したとのことで、キリスト教徒の Amanat Masih を襲った。警察は不敬罪で Masih を逮捕した。この報告期間の終わりの段階で、彼はまだ刑務所にいた。

2007 年 1 月、裁判所は、2 年以上前に不敬罪で有罪判決を受けたキリスト教徒、Shahbaz Masih を無罪とした。裁判所は、彼が精神的に不安定であると判断し、25 年の刑を短くした。イスラム教の墓地でコーランのページを破ったと訴えられた後、公判前の拘留を含め、彼はほぼ 6 年間拘置所にいた。

2007 年 1 月、4 カ月前に不敬罪で逮捕された 17 歳のキリスト教徒、Shahid Masih は、1,650 ドルの保釈金で釈放され、この事件を見守っている地元の過激なイスラム教徒の反応を恐れて、すぐに潜伏した。警察が彼を独房に入れるまで、彼の罪のせいで刑務所内において仲間の囚人に殴られたと、彼は訴えた。当局は、彼とイスラム教徒の友人が、コーランが含まれる本のページを破ったと告発した。

2006 年 11 月 27 日、裁判所は、キリスト教徒の James Masih および Buta Masih にコーランを燃やしたとの不敬罪で有罪判決を下し、10 年の懲役を言い渡した。

2006 年 11 月 10 日、裁判所は、Ranjha Masih の不敬罪による終身刑を破棄した。彼は 2003 年 4 月に有罪判決を受けた。

2006 年 10 月、警察は、バスの中の反アフマディーのステッカーを破ったとして、アフマディー教徒の Mohammed Tariq を逮捕し、不敬罪で告発した。警察は 2006 年 12 月、彼を保釈金で釈放し、この報告期間の終わりの段階で、彼は裁判を待っていた。

2006 年 9 月、警察は不敬罪で告発した、アフマディーの出版物、Al Fazl のために働いていた 2 人のアフマディーのジャーナリストを、保釈金で釈放した。Al Fazl の他の 3 人、編集者、発行者、印刷者は、同じ罪での裁判手続きを待ちながら、拘留されたままであった。

2006 年 7 月、裁判所は 2004 年以来不敬罪で Lahore の刑務所に入っている Hafiz Afzal Rehman および Hiji Latif を保釈金で釈放した。彼らの裁判は係争中であった。

少数派コミュニティは、政府がイスラム教徒による彼らの財産の強奪に共謀し、不法スラム居住地の撤去の政府政策が少数派コミュニティを不釣合いに目標にしたものであると非難した。これらのグループは、少数派グループに属する礼拝所に対する過激派グループの襲撃事件で、政府が何もしないことも非難した。

2007 年の春、アフマディー・コミュニティのメンバーは、すでにある墓地を拡張するために、Lahore の外側に 6 エーカーの土地を購入した。地元の聖職者は購入を非難し、アフマディー・コミュニティに対するデモを行った。警察は聖職者側につき、地元当局はその土地に壁を建てることは「背教の拠点」を作るために利用されると主張した。アフマディーが壁を取り除くことを拒否した時、夜中に警察官を乗せた 5 台のバスが来て、破壊した。当局者はその行為が地元の聖職者の圧力で行われたと認めた。

2007 年 3 月、Punjab のアディアラ (Adiala) 刑務所の 160 人以上のキリスト教徒は、当局が彼らの礼拝所と洗濯室を返すまで、2 日間のハンガーストライキに参加した。

2006 年 12 月、地元のムッラー (イスラム教聖職者) は、アフマディー女性、Bakht Bibi の村の共同墓地での埋葬を避けるために、警察と手を組んだ。彼女は、結局、1.5 キロ離れた私有地に埋葬された。同じムッラーが、1 カ月前にアフマディーの祈祷センターを閉鎖するように警察を説得した。

2006 年 10 月、警察は Sialkot 地区の新しいアフマディーの学校の建設を中止させた。ムッラーは、その後、一部建てられた建物を破壊したといわれている。

2006 年 9 月、地元のアフマディー組織の会長、Malik Saif ur Rahman は、彼の農場の土地の小さなモスクの建設を終えた。地元のムッラーは警察に抗議した。あとで、私服の警察官の一団が来て、破壊した。

2006 年 9 月、2 つの別の事件で、裁判所は、キリスト教徒の母親が子供をキリスト教に改宗させるとの供述を養育権の決定の基にし、子供の養育権をイスラム教徒の父親に与えた。しかし、父親は、前妻から子供を誘拐したと疑われていた。最初のケースでは、彼の前妻がキリスト教に再改宗したので、イスラム教徒のパキスタン男性に、彼の 12 歳の娘 Molly の養育権が与えられた。Sajad Ahmed Rana は、Molly の母親がスコットランドで彼女と結

婚していない男性と暮らしていて、Molly をイスラム教の家庭で育てていないと Lahore の裁判所に告げた後、Molly の養育権を得た。Molly はスコットランドの学校からいなくなり、数日後に彼女の父親と Lahore に現れた。2 番目のケースは、2004 年に、イスラム教徒の男性が前妻から 2 人の子供を誘拐したとして逮捕された。彼は前妻が子供をキリスト教に改宗することを恐れて、監視付きの訪問の際に誘拐した。

2006 年 6 月、暴徒が 2 人のアフマディーを傷つけ、彼らの所有物を破壊した襲撃の後、Sialkot 地区の警察は 7 人のアフマディーを逮捕し、さらなる襲撃を恐れて 75 人を村から移動させた。警察はコーランを冒涇したとして 4 人のアフマディーを逮捕した。あとで、何 100 という人がその冒涇に対してデモを行い、アフマディーの礼拝所に被害を与えた。さらなる被害を避けるために警察が動員された。

2006 年 9 月、Sindh の地方裁判所は、改宗未遂の罪で逮捕されることを恐れ隠れていた 3 人のアフマディーに仮釈放を与えた。警察は、以前に、上級裁判所が保釈を認めた他の 2 人のアフマディーを逮捕していた。

2006 年 4 月、上訴裁判所は不敬罪のキリスト教徒の教師に無罪を宣告し、5 年の拘留の後、彼を釈放した。

2005 年 11 月、カトリック司祭、Anthony Lobo は、政府が約 200 人のキリスト教徒を Sindh の自宅から立ち退かせ、その家を 2005 年 10 月の地震のイスラム教徒被害者に与えたと主張した。

2005 年 9 月、Lahore で、キリスト教徒の Younis Masih は、夜間の宗教儀式に伴う大音量の音楽に関して、イスラム教聖職者と衝突した。口論のうちに、Masih は伝えられるところでは、ムハンマドを侮辱した。警察は不敬罪で Masih を逮捕し、その直後、暴徒がキリスト教コミュニティを襲った。Masih は、2007 年 5 月 30 日、Lahore の地方裁判所で死刑を言い渡された。この報告期間の終わりの段階で、事件は上訴されていた。

NWFP の警察がコーランを冒涇した罪でヒンドゥー教徒のカップルを逮捕した 2005 年 9 月の事件で、判決は下されそうになかった。裁判所はそれぞれが当局者の前でイスラム教に改宗した後、保釈金で釈放した。

2005 年 6 月、NWFP の警察は、読み書きのできないキリスト教徒の雑役夫、Yousuf Masih を不敬罪で逮捕した。目撃者は、Masih が雇い主のゴミを処理する際に、コーランのページを燃やしたと主張した。警察は、後に彼への告発を取り下げた。それに続いて、暴徒は

Sangala 丘陵地区の 3 つの教会、修道院、他のキリスト教施設を燃やした。人権グループは、警察が Masih をひどく虐待し、それが彼の健康の悪化につながったと非難した。

政府が信仰に基づいて個人を強制労働あるいは奴隷状態に服従させることはなかった。しかし、少数派コミュニティの指導者は、政府がレンガ製造および農業の両部門での強制労働を避けるための適切な行動を取らなかったと非難した。キリスト教徒とヒンドゥー教徒は、この慣行の不釣り合いに多い被害者であった。2005 年 6 月、警察は Punjab 州の現場に踏み込み、レンガ窯で強制労働に従事していた主としてキリスト教徒の 300 人以上を解放した。

2004 年 7 月と 12 月の間、多くが不敬罪にかかわる少なくとも 8 件の別々の反アフマディー逮捕があった。ほとんどの事件では、警察が被害者を釈放したか、裁判なしで告発を取り下げた。

2004 年 8 月のキリスト教徒、Nasir Mukhtar の拘留中の死にかかわった警察官に対する殺人罪は係争中だったが、この報告期間中、逮捕はなかった。

2004 年 7 月、警察は、地元のゴミ捨て場にコーランのコピーを投げ入れたと告発されたキリスト教徒の少女とその父親を逮捕した。イスラム教徒の暴徒は、家族の住居を焼き払うと脅し、少女を殺害しようとした。2 人は、結局、釈放され、家族は安全を確保するために引っ越した。

2004 年 7 月、Bahawalpur 地区の地方政府当局者は、26 のヒンドゥー教家族を立ち退かせ、その土地を地元のイスラム教徒に割り当てた。

2004 年 7 月の抗議の後、Chenab Nagar (Rabwah) の警察は、仮設モスクがかつてあった地元アフマディー・コミュニティの所有地を保持し続けた。

強制的改宗

宗教的少数派の強制および強要されたイスラム教への改宗は、社会の行為者の手によって行われた。宗教的少数派は、問題を止めるための政府の行動が不適切であったと主張した。Sindh のヒンドゥー・コミュニティの代表は、年に 15 から 20 のヒンドゥー教家族の強制改宗(通常、家族の負債に関連)があると主張した。人権グループは、特に Karachi と Sindh の他の地域で、地元関係者によって家族から誘拐され、イスラム教に強制的に改宗させられ、誘拐犯と結婚させられるという、ヒンドゥー教徒の少女に関する増加する現象を強調

した。誘拐犯はそこで少女が改宗し、自発的に結婚した新婦であると主張する文書を作成する。背教は死罪なので、被害者は困難な立場に追い込まれる。

2007 年 2 月、イスラム教徒の雇い主が、イスラム教への改宗を拒んだことで 2 人のキリスト教徒の兄弟を誘拐し、1 カ月間拷問にかけた。彼らはやがて脱出し、隠れている。

2007 年 5 月、地元の宗教当局は、86 歳のキリスト教徒の女性を、彼女の夫が不敬罪で逮捕された後、無理にイスラム教に改宗させた。

2006 年 12 月 6 日、Multan の警察は、雇い主に誘拐され、無理にイスラム教に改宗させられ、彼と結婚させられようとした、Azra Bibi を救出した。

同じく 2006 年 12 月、Sindh の Tharparkar で、個人教師が少女を誘拐し、無理にイスラム教に改宗させた。個人教師は彼が教えていた学校が出した命令によって彼の主張を裏付けた。警察は彼女の家族からの苦情にもかかわらず、事件の手続きを取ることを拒否した。

2006 年 7 月 11 日、Kenneth Gill、キリスト教徒、15 歳は、イスラム教徒の若者によって、Sheikhupura のモスクに連れ込まれた。Gill はイスラム教に改宗したといわれ、後になってのみ、彼は改宗する気がなかったと主張している。地元聖職者は彼を背教で告発し、彼は逮捕された。Gill は 2006 年 8 月 7 日に釈放され、その地方から引っ越したと伝えられている。

2006 年 6 月 27 日、13 歳の Pampi Mai、キリスト教徒は、彼女が訪ねていたイスラム教徒の友人の家族によって誘拐された。警察はしぶしぶ事件の手続きを取ったが、この報告期間の終わりの段階で、逮捕はしていなかった。

2004 年 8 月と 2006 年 6 月の間、少なくとも 7 件の確認された誘拐と強制改宗の事件があった。これらの事件の多くには、ひどい暴力と被害者の強姦があった。

米国から誘拐された、あるいは違法に連れ去られた未成年の米国市民の強制改宗の報告はなかった。

テロリスト組織による迫害

移民国籍法の第 219 条で米国国務省によってテロリスト組織として指定された個人、あるいは組織、また、そのような組織と強いつながりのある武装した宗派の過激派グループに

よって行われた、宗教グループの虐待にかかわるいくつかの事件があった。

宗派がらみの暴力の現状は、この報告が扱う期間中、全国で変わらぬままであった。

聖職者を狙った暗殺は、非合法の宗派組織の Sipah-i-Sahaba (SSP)、テロリスト組織の Lashkar-i-Jhangvi (LJ)、宗派組織の Sunni Tehrike (ST) および Sipah-i-Mohammad(SMP)を含むいくつかのグループの変わらぬ主要手段であった。SSP および LJ は、シーア派およびバーレルウィを狙い、一方、ST および SMP はデオバンディーを目標にした。

2006 年 12 月 23 日、ゴーマル大学経営学部教授、Nazakat Ali Umrani は、D.I. Khan で身元不詳の武装勢力に撃ち殺された（4 カ月後、彼の兄弟が殺害された）。彼はシーア派だった。

2006 年 12 月 24 日、D.I. Khan での葬儀の最中に発砲事件があり、4 人のスンニー派が殺害され、4 人が負傷した。事件は、D.I. Khan でシーア派とスンニー派間での抗議と衝突の 1 日をもたらした。

D.I. Khan の Chaman Chowk 近郊で、2007 年 2 月 14 日、2 人の身元不詳の銃を持った男たちがシーア派指導者、Jawad Hussain を殺害した。

2007 年 3 月 9 日、Syed Anwar Abbas、シーア派実業家が、D.I. Khan の彼の店の外で撃ち殺された。Anwar の兄弟、Moodi Shah は、シーア派活動家で前市長であった。

2007 年 3 月 13 日、Mohammad Farooq、Jamia Masjid Kalan モスクのスンニー派のお祈りの指導者であり SSP のメンバーが、D.I. Khan カーンのバザールに行く途中、撃ち殺された。同日、2 人の銃を持った男が、SSP 活動家の Hafiz Ishaq を彼の店で撃った。彼は重大な怪我を負った。

LJ および SSP の両者は、この報告が扱う期間中、礼拝所や宗教的集会を攻撃し続けた。

アル・カーイダとつながりのある組織は、国内のネットワークを維持し、その支持者は定期的に反ユダヤおよび反シーア派声明を出した。

信教の自由に関する進歩と前向きな展開

政府は、この報告が扱う期間中、宗教の自由を強化する手段を講じた。

Musharraf 大統領は、フドゥード法で投獄されたすべての女性の釈放を命じた。少数の女性が拘留されたままで、ほとんどの女性は政府運営のグループホームに収容された。

2006 年 12 月、最高裁判所の決定は、シャリーアに基づく並行する法制度を NWFP に作る、NWFP でのハスバ法案 (Hasba Bill) に関する州の行動を中止させた。

政府は、最新の登録規定を実施するために、国の大部分の madrassahs を監督する wafaq 委員会 (wafaq boards) との交渉に、積極的な姿勢を貫いた (セクション II 参照)。

政府は、警察官養成プログラムの一環として、人権意識を引き続き加えた。

Islamabad の世界宗教会議 (the World Council of Religions) は、イスラム教、キリスト教、ヒンドゥー教、シク教、仏教、パールシー教コミュニティの指導者の助けを受け、Musharraf 大統領から支援され、国中での宗教間の対話の場を引き続き組織した。宗教省およびイスラム・イデオロギー評議会は、小さな宗派間および宗教間の会合ならびに対話の場を引き続き組織した。これらの会合の後、デオバンディーおよび JI の宗教的政治的指導者は、反キリスト教および反ヒンドゥー教の表現を大幅に弱めた。

2007 年 5 月、Punjab 州教育相は、非教育利用のために、改革長老教会協議会 (ARP: Associate Reformed Presbyterian) のミッションスクール 2 校から取り上げた財産を返却することに同意した。教育相は、できるだけ早期に、10 の初等および中等学校を ARP の経営陣に返却することを約束した。

2007 年 1 月の始め、Peshawar の世俗的な大学の 2 人のイスラム教学生が、大学の敷地内のキリスト教教会の建設を中止させるために裁判所へ行った。2007 年 1 月 23 日、ペシャワール高等裁判所は、彼らの請願を却下し、教会の建設を続けることを認めた。裁定で裁判官は、「イスラム教は少数派の宗教の自由を保証しており、祈りの場を建てることに法的障害はなく、パキスタンの憲法は宗教的少数派を保護している」と述べた。

セクション III 社会的虐待および差別

国の宗教コミュニティ間の関係は、依然、緊張が続いていた。宗教的少数派に対する、またイスラム教宗派間での暴力が続いた。ほとんどの人が、わずかな少数派に襲撃の責任が

あると考えていたが、差別的な法律と宗教的不寛容の教えが、襲撃を許す環境を作った。警察は暴力や嫌がらせを防ぐことをしばしば拒否し、あるいはそのような違反を犯した者への告発を拒否した。

暴徒は、不敬罪で訴えられた個人、その家族、あるいは彼らの宗教コミュニティを、彼らの逮捕前に、時折、襲った。不敬および他の宗教に関する事件が裁判所に持ち込まれた時、過激派はしばしば法廷に押し寄せ、無罪判決に対して公に脅迫した。宗教的過激派は、不敬罪で無罪判決を受けた者を殺害すると脅し続けた。知名度の高い告発を受けた人は、無罪判決後、しばしば隠れるか他国へ移住した。

2007 年 4 月 8 日、地元の過激派は、自宅をアフマディーの祈祷センターとして使っていた 82 歳のアフマディー、Chaudhry Habibullah Sial を拷問し、殺害した。

2007 年 3 月 1 日、元警察官が、アフマディーの Mohammed Ashraf を、彼が宗教をスンニー派からアフマディーに変えたとのことで、殺害した。殺人者は、背教は死刑によって罰せられるべきなので、自分は何も悪いことはしておらず、イスラム法に従ったと主張した。

2006 年 11 月、Bagar Sargana の 2 人のアフマディー男性が、金曜日のお祈りの後、帰宅途中に暴徒に襲われた。

2006 年 10 月、Chawinda のモスクのアフマディーのイマームが、モスク施設内の彼のアパートで襲われた。

2006 年 9 月、アフマディーの Abdul Basit 教授は、Dera Ghazi Khan の自宅で襲われた。

2006 年 8 月 22 日、アフマディーの Munawwar Ahmad Sahib が Gujrat の自宅で 2 人の銃を持った男たちに殺害された。

2006 年 8 月、アフマディーの青年、Etzaz Ahmad が、見習いとして働く店で襲われた。襲撃者は、異教徒を殺害しようとしたと言った。

アフマディー個人および組織は、長いこと宗教がらみの暴力の被害者であり、その多くは、組織された宗教的過激派が扇動したものであった。アフマディー指導者は、過去数年、戦闘的なスンニー派ムッラーと彼の支持者が、中央 Punjab のアフマディーが多い、精神的な中心地である Rabwah の街で、時に暴力的な反アフマディーデモ行進を実施したと非難した。100 人から 200 人の間の群集の支持を受け、ムッラーはアフマディーとその創始者を

非難したといわれ、状況は時に暴力へとつながった。アフマディーは、これらのデモ行進の際、通常、警察はその場にいたが、暴力を避けるために介在することはなかったと主張した。前回の報告とは対照的に、この報告期間中、そのような報告はなかった。

キリスト教徒に対する暴力と嫌がらせは、この報告が扱う期間中続いた。低い階級のヒンドゥー教徒の祖先の血を受け継ぐ多くのキリスト教徒は、宗教的よりも倫理的、社会的理由によって差別に直面した。

2007 年 5 月 7 日、NWFP のいくつかのキリスト教徒コミュニティは、10 日以内にイスラム教に改宗するか、死および家と教会の爆破を含む恐ろしい結果に直面すると主張する、イスラム教原理主義者からと名乗る手紙を受け取った。10 代の若者が「いたずら」で手紙を書いたと認め、宗教指導者は彼の謝罪を受け入れた。

2007 年 4 月、イスラム教徒は、キリスト教徒の少年が彼の甥からムハンマドの名前が書かれたステッカーを奪い、地面に投げ、踏みつけたと主張した。これが、預言者の誕生日を祝っていたイスラム教徒のグループを激怒させ、彼らはキリスト教徒を襲い、多数を負傷させ、手足の不自由な男性をひどく殴った。

2007 年 4 月、12 歳のキリスト教徒の少女が、イースターの日 Lahore 近郊で誘拐され、強姦された。彼女は家族のもとへ帰されるまで、4 日間拘束された。当局者は、医師が診断書の提出を拒否したとのことで、4 人の襲撃者に対する最初の調書を提出しようとしなかった。

2007 年 1 月、殉教者の声 - カナダ (Martyrs-Canada) は、イスラム活動家が Pakpattan のイスラム教徒の祝祭で、キリスト教パンフレットを配ったことに対して 4 人組のキリスト教徒を襲ったと伝えた。

2006 年 12 月 25 日、Lahore 近郊の Nanghal Sahdaan の村の 3 人のイスラム教住人が、キリスト教教会を襲い、火をつけようとした。同じ男たちは、1 週間前に礼拝を邪魔しようとしていた。司祭は事件を警察に報告し、警察は彼らの自宅へ行ったが、男たちを見つけることはできなかった。

2006 年 12 月、Sialkot のイスラム教徒のカップルが、3 カ月間監禁し、拷問した母親と娘を解放した。カップルは、親子をキリスト教からイスラム教へ無理に改宗させようとした。母親と娘は拒否し、結局、裁判制度の助けで解放された。

2006 年 11 月 12 日、棒と銃を振り回した酔ったイスラム教徒の暴徒が、Talab Sarai の村の Nazarene 教会の集会を襲った。

2006 年 10 月、イスラム教徒の教師は、Kasur の少女が学校に十字架をして来たとの理由で、15 歳のキリスト教徒を殴り、彼女が卒倒するまで灼熱の戸外に無理やり立たせた。

2006 年 8 月、警察は、キリスト教徒の女性と子供のグループを襲い、教会を手榴弾で破壊し、2 軒の近くの家に火を放った 4 人のイスラム教徒男性を逮捕した。イスラム教徒の隣人は、女性と子供を助け、襲撃者たちが車で逃げるのを手伝った。

2006 年 8 月、男は姪がキリスト教に改宗したとして、彼女を襲った。彼女は逃げて、潜伏した。

2006 年 8 月 7 日、地元の工場のブルドーザーが、Mominpura Thiaki の村のアワミ教会を破壊した。地元の司祭が政府に訴え、工場が再建のための資金を教会に提供した。

2006 年 7 月、イスラム教を実践することを拒否したことで、彼女のイスラム教徒の夫と義理の家族からさらなる身体的虐待を受けるのを避けるために、若いキリスト教徒の女性が潜伏した。女性の年上の兄弟が、彼女を無理にイスラム教に改宗させようとし、彼女の夫となる男性に彼女が改宗したと言って結婚の手配をした。彼女の夫は彼女がコーランを読むことを拒んだことで、2 カ月間、毎日、殴り、強姦した。

ヒンドゥー教徒は、この報告が扱う期間中、しばしば彼らの寺院に向けられた、社会的暴力に直面した。犯罪者は、特に Karachi で、誘拐目的でヒンドゥー教徒の実業家を狙った。ヒンドゥー教徒は、警察が誘拐被害者を取り戻すのにほとんど何もしないので、身代金を無理に支払わされたと主張した。

シク教コミュニティに対する社会的暴力は、比較的まれであった。

イスマーイール派 (Ismailis) は、彼らの相対的に豊かな経済状態によってスンニー派イスラム教徒の敵意の対象であったと伝えた。イスマーイール派は、保守的なイスラム教の慣行を受け入れるようにとの社会の圧力、あるいは社会的に追放される危険に直面していたと伝えた。

国内にはごくわずかなユダヤ教市民しかいなかったが、反ユダヤ教的記事は、現地語新聞でよくあった。

いくつかのスニー派イスラム教グループは、アフマディー、シーア派イスラム教徒、他のスニー派宗派、ヒンドゥー教徒に対する暴力を求める論文を発行した。いくつかの新聞は、宗教的少数派、特にアフマディー、ヒンドゥー教徒、ユダヤ教徒への軽蔑的な言及を含む記事を頻繁に掲載した。モスクでの説教は、宗教的少数派を頻繁に罵った。

2007 年 7 月、パキスタン軍と治安部隊は、Islamabad の赤いモスク (Lal Masjid) に対して軍事行動を開始し、10 人の治安部隊とモスクの指導者を含む 79 人の活動家の死亡という結果をもたらした。3 月から 6 月にかけて、モスクとその隣の少女のための madrassahs を乗っ取った活動家達は、売春宿のオーナー、警察官、外国人のマッサージパーラー従業員を誘拐した。モスクへの交通を遮断しようとした治安部隊に活動家達が発砲した時に、戦闘が勃発した。この対立は、政府に、国中の madrassahs での過激論の教を制限する取り組みを新しくするように促した。

2007 年 5 月、Islamabad の赤いモスクのイスラム教聖職者と学生が、何人かの警察官を捕まえ、モスク関連の保守的神学校に 4 日間人質として拘束した。同じ月、神学校と関連のある女性が、売春宿を営んでいると告発された 3 人の女性を誘拐し、拘束した。2007 年 6 月、モスクの過激派が、鍼、マッサージクリニックで 6 人の中国人従業員と 2 人のパキスタン人を誘拐し、後に解放した。

2007 年 4 月、2 週間続いた宗派がらみの暴力で、100 人以上のシーア派とスニー派が死亡し、より多くが負傷した。戦闘は Parachinar で始まり、クラム (Kurram) 部族地域中に広まった。この報告の終わりの段階で、2 つのグループの間に危うい休戦が存在した。

2007 年 4 月、NWFP での宗派がらみの暴力の出来事で、武装勢力が 2 人のシーア派男性と彼らのスニー派雇い主を殺害した。被害者の 1 人、弁護士で地元政党の指導者は、数カ月間、脅迫を受けていた。同じ記事は、2007 年の 1 月と 3 月の間に、少なくとも 8 人のシーア派が同じ市において宗派がらみの暴力で殺害されたと伝えた。それぞれの襲撃後、暴徒が市場を破壊し、店を閉鎖させ続けた。

2007 年 2 月、イスラム教の聖職者が、キリスト教司祭と Faisalabad の 2 人のイスラム教徒に対して、社会の調和と平和を促進する宗教間のプログラムに出席した後、殺害の脅迫状を送った。

2007 年 1 月、アシュラのシーア派の祝祭の最中に、少なくとも 2 人の自爆テロ犯がシーア派の集会を襲い、2 つのロケット弾が Bannu のシーア派モスクに向けて発射された。クリ

スチャン・サイエンス・モニターは、その性質が宗派がらみと疑われるこの襲撃で、少なくとも 21 人が死亡し、40 人が負傷したと伝えた。

宗教に基づく雇用での差別は、広く行われているように見受けられた。キリスト教徒の活動家は、近年、民間部門において状況はいくらか改善したと述べていたが、キリスト教徒は、雑用にかかわるもの以外で、仕事を見つけるのが困難であった。

この報告期間中、農業およびレンガ窯産業部門における強制労働の大部分は、非イスラム教徒であった。

この報告期間を通して、イスラム過激派による襲撃、脅迫、暴力が、パキスタン中で、しかし、特に NWFP で、増加した。その原因は、近隣アフガニスタンから国境を越えて入って来たタリバーンの影響によるものと考えられた。

2007 年 5 月、Nilofar Bakhtiar 観光相は、強硬派イスラム教聖職者からの批判の後、無理やり辞職させられた。彼女は 2007 年 4 月、チャリティーのお金を調達するためのパラグライダー飛行を終えた後、年配の男性に抱きついたところを写真に撮られた。聖職者は、彼女の公の場での感情の表現をわいせつであると見なした。

この報告期間を通して、イスラム過激派は、現地と外国の音楽とビデオのカセットを売る NWFP および FATA の店を襲撃した。店のオーナーは、反イスラム的と見なされる品目を販売するのを止めるように、襲撃の前に警告を受けていた。少なくとも 1 件では、逮捕されたのはイスラム教聖職者であった。

2007 年 2 月、NWFP の 2 つの公立女子高校は、女子学生および教師がベールとブルカ (burqas) を着用しなければ襲撃するとの脅迫を受け取った。アジアニュースは、イスラム過激派が学校に「イスラム教の規範」に従うのに 1 週間を与え、あるいは学校を爆破すると伝えた。両校は閉鎖された。

2005 年 7 月と 2006 年 6 月の間、アフマディーおよびキリスト教徒は、パキスタンでの宗教がらみの襲撃の一番の目標であった。1 人のアフマディーが殺害され、イスラム教聖職者は、アフマディーの少女の遺体がイスラム教の墓地に残るのを認めることを拒否した。キリスト教徒は彼らの教会の放火に直面し、デンマークの新聞のムハンマドの漫画の掲載の後、少なくとも 6 カ所のキリスト教施設が襲撃され、1 人の牧師が誘拐され、拷問を受けた。

セクション IV 米国政府の政策

大使館員は、宗教の自由を奨励し、不敬罪、フドゥード法、公立教育のカリキュラム改革および madrassah 教育制度、アフマディーおよびキリスト教徒コミュニティの処遇、宗派がらみの暴力を議論するために、政府、宗教、少数派コミュニティの代表との対話を続けた。大使を含む大使館職員は、あらゆる宗教グループのコミュニティからの指導者および宗教の自由の問題に関し活動している NGO と会った。大使館職員はまた、国会議員にアフマディーの処遇を提起し、議論した。

全体の公立教育改革プログラムの一環として、1 億ドル（60 億ルピー）の額で、米国は宗教の不寛容の教えを取り除くことを含む、政府のカリキュラム改革構想に多額の資金援助を提供した。

2007 年 9 月 14 日公表